

< あなたの治療について >

婦人科 - Tisotumab vedotin - 子宮頸 - q3w

今回の治療は、Tisotumab vedotin 療法という治療法で、テブダック（TV）という注射薬で治療を行います。テブダックは腫瘍の増殖を抑えるお薬です。

◎ 治療全体の流れ

今回の化学療法は3週間が1コースとなっています。各コースの1日目に点滴を行います。この治療を3週間（21日間）ごとに繰り返します。副作用が強く出たり、体調がすぐれない場合は回復するまで、治療を延期したり、お薬の量を減らしたりすることがあります。

◎ 1コース分の治療スケジュール

順序	薬剤商品名 (薬の作用)	投与	1日目	2～21日目
①	デキサート (吐き気止め)	点滴 約 30 分		お休み
②	テブダック (抗がん剤) 2mg/kg	点滴 約 30 分		

★ 点滴中や点滴後に、注射部位が痛い、赤くなってはれる、水ぶくれができる、ただれるなどの症状に気づいたときは、すぐに申し出てください。また点滴中は、腕を動かすことにより針がずれ、点滴漏れが生ずることがありますので気をつけて下さい。

◎起こりやすい副作用について（頻度 20%以上）

テブダックによる

●悪心 ●末梢性感覚ニューロパチー ●鼻出血 ●結膜炎 ●脱毛症

◎特徴的な副作用について

テブダックにおける

●眼障害

「目の充血、目やに、目の痛み、目の異物感、涙がでる、まぶしい、視力の低下、目が開きにくい、目が閉じにくい、物が見えにくい」などの症状

*この薬の使用中はコンタクトレンズを使用しないでください。

●重度の皮膚障害

「発熱、全身の発赤、皮膚・粘膜のただれ、水ぶくれ」などの症状

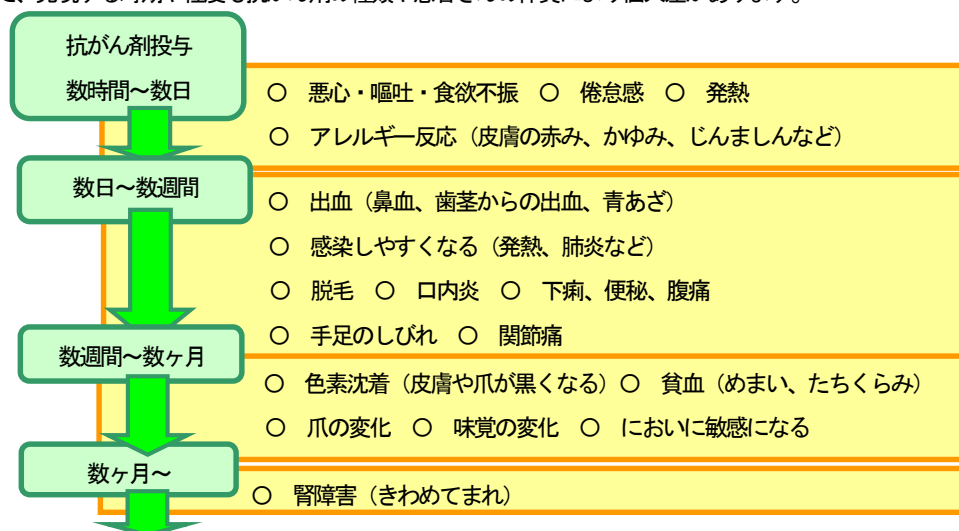
*上記症状が現れたときは、必ず医師・看護師・薬剤師にご相談下さい。

◎副作用の発現時期の目安

*この図は、今回用いられている抗癌剤による副作用だけでなく、他の抗癌剤によって起こる副作用も含まれています。

これらの副作用がすべてあらわれるわけではありません。

また、発現する時期や程度も抗癌剤の種類や患者さんの体質により個人差があります。



◎副作用の対策について

★吐き気・嘔吐、下痢と便秘、口内炎、感染症、出血、貧血、脱毛などの副作用の対策について知りたい方は、資料をお渡しすることができますのでお申し出下さい。

◎薬品毎の副作用について（添付文書における重大な副作用を製薬会社作成「薬のしおり」などから抜粋）

まれな副作用ですが、このような症状が現れた際には医師・薬剤師・看護師へご相談下さい。

【テブダック】

〔結膜炎、角膜炎などの眼障害〕 目の充血、目の痛み、目の異物感

〔末梢性感覚ニューロパチーなどの末梢神経障害〕 手足のしびれ、手足の痛み、手足の感覚がなくなる

〔スティーブンス・ジョンソン症候群〕 発熱、目の充血やただれ、唇や口のただれ

〔消化管出血〕 吐き気、腹痛、黒い便が出る

〔発熱性好中球減少症、好中球減少症〕 発熱、寒気、のどの痛み

◎ 上記のほかにも副作用が現れることがあります。

他にもからだの異常を感じたら、主治医や薬剤師、看護師に相談してください。